

設計・計画部門

こばやし やすし
小林 靖

生年月日 1980年 8月 8日
最終学歴 2005年 名古屋工業大学
大学院修士課程修了
業務経歴 2005年 清水建設㈱入社
現在、関西事業本部 建築
設計 1 部

●担当した主なプロジェクト

2007年 目黒星美学園 修道院
2011年 日本HP本社
2012年 五島美術館 改修
2014年 め利彦ビル南館
2015年 東京国税局

■青年技術者のことば

大学の恩師の言葉を借りるが、良い建築の3つの条件とは、①雨が漏らないこと（これは構造や設備も含め機能を満足すること全般を指す）、②格好が良いこと、③歴史的・文化的であること、である。普段、組織で仕事をする我々にとって①と②については日常的に取り組んでいるが、③まではなかなか踏み込め無いのが現実ではなからうか。その様な中で私なりに心がけていることは、風土を読み解くことだ。

当たり前のことだが、建築設計は他のプロダクトデザインとは異なり、敷地ありきの一品生産である。そのロケーションを読み解き、その場所に最も相応しい、その場所ですしか出来ない形態・機能を書くことが最も重要だと考えている。それは単に周辺の町並みに色や形態を合わせることを意味するのではない。都市は新陳代謝するし、街にはシンボルが必要とされる場合もある。

ここに掲載した2つの作品においても、その土地や、歴史に寄り添った建築のありかたをイメージし設計に望んだ。結果、良い建築に結び付いたのではないかと思う。

■すいせん者

鳥居健一
清水建設㈱関西事業本部
建築設計 1 部部長

撮影
吉田 誠 日本HP本社(※)
小川重雄 五島美術館



日本HP本社

グローバルIT企業の日本法人本社で、約6000人が利用する。環境対応型の次世代オフィスという施主ニーズに対し、高度に制御されたダブルスキン等ではなく、「庇」という解法を導いた。この庇は、日射制御以外にも、空調機置場、ダクト展開スペース、メンテナンスバルコニー、屋外テラスとしても機能している。結果として、グローバル企業であるHPの日本オフィスという、彫りが深く水平ラインの印象的な外観にも結び付いた。



五島美術館 改修

築50年を迎えた吉田五十八設計の美術館の増築+内外装改修。改修には、新たな要素を加える方法と、既存に寄り添った方法の二種類があるが、後者を選択した。但し、そこには現代的な解釈や技術を盛り込み、自然採光可能な展示空間も提案し実現した。開館後の来館者のブログを見ると「どこを改修したのか分からなかった」とのコメントも見られ、手応えを感じている。

